

1学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校
1学年 第20号
2015.9.9(木) 発行

素晴らしい合唱をありがとう！ 指揮者のみなさんからコメントを頂きました。

1年4組 指揮者 大橋 和真

生まれて初めて指揮者を務めさせていただきました。思った以上で大変で、自分なりに頑張りましたがうまくいかないことも多々ありました。その事でいろいろダメ出しされて、精神的に相当疲れました。本番は自分なりの指揮ができました。と、かなり思い込んでいます。今回の経験は私にとって大きなものとなったと思います。



1年3組 指揮者 井上 維文

8月28日に行われた合唱コンクールに向け、1年3組では全員で気合いを入れ、女子は夏休み前から練習を始めていました。クラス全体で練習できた期間はわずかでしたが、私も指揮者としていい合唱にしたいという思いで練習しました。頼りない私でしたが、クラスのリーダーたちが指示を出してくれたり、クラスを引っばってくれたりしたので、本当に支えてもらったと感じています。本番ではクラスの最高の合唱ができ、指揮者をやってよかった、と思いました。



1年2組 指揮者 和田 早織

「縦の糸はあなた、横の糸は私」。どこか物悲しげな音の運びには、人生において鍵となる「人との出会い」が歌われています。「出会い」というテーマはあまりに壮大で、高校1年の今はまだ、その真意には手が届いていないでしょう。しかし、1-2 40人の×40の出会いとを、合唱として形にすることに意味を感じて指揮を振ってきた数日間でした。私は、声は心の窓であると考えます。音楽が好きな人もそうでない人も様々集う中で、歌詞が紙面上のものとしてではなく言葉として歌われるようになっていったこと、個々の声が1-2の声へと変わっていったこと、その事実を大変嬉しく思います。



1年1組 指揮者 後藤 萌音

私は指揮者として高校生初の合唱コンクールに取り組みました。中学校から指揮者には興味があったものの、歌う方が好きだった私にとって、このことは良い経験になったと思います。

また、1組は夏休み中一度も全員で合わせることができなかったため、2学期が始まってから本番までの1週間で仕上げるという「短期集中型」で取り組みました。もちろん、最初は上手いききませんでした。本番が近づくにつれ、まとまった合唱になっていきました。本番でも、練習以上にきれいに歌い切ることができました。1年1組としての残りの7ヶ月間を、もっと団結力を高め、皆で楽しく、充実したものにしていきたいです。



1年5組 指揮者 村田 陽香

私たちは夏休みを使って練習に励んできました。部活動があって忙しい中みんな協力してくれて、夏休み明けからの練習をスムーズに行うことができました。とても難易度の高い曲で音取りの時点で苦戦しましたが、男女でともに助け合って練習を重ねてきました。みんなで優勝を目指していたので3位は悔しいところもありましたが、このメンバーで歌う最初で最後の合唱を楽しめてよかったです。



好きなフレーズ「今私が立っているここから この一歩のところから 明日へ続く道が始まる」

K先生の感想「歌詞に心をのせていました。明るい気持ちにさせる歌声です」

表彰式 ↓ Y山の後ろ姿ではありませんか？



明日（あした）へ続く道

作詞 : 星野富弘 作曲 : 千原英喜

鈴蘭の花

涙のように咲いていた

翼のある鳥になりたかった

あの日のことが

なかったみたいに 日々は巡り

私には眩しすぎる陽が昇る

夜の底から静かに聞こえた

夜明けの歌声

折れた枝の桜は咲いて

鈴蘭の花

真珠のようにゆれている

さあ足を上げよう

翼はないけれど

自由なところと夢がある

今私が立っているここから

この1歩のところから

明日へ続く道が始まる

<結びに> 審査委員の鍛冶先生の講評が印象的でしたので紹介します。

「合唱は、歌うのが上手な人も、下手な人もいていい。どんな人にも、その人の良さがある。その良さを皆で引き出せばいい。また、一緒に歌えば 誰もが幸せになる。今、世界は争いがあり、不幸な人達がたくさんいる。音楽で世界を平和にすることができる、と信じている」